

西村 和子 選

歴戦を物語る耳ラガーマン

紀の川市 中島 走吟

△評▽ラクビーのフォワードはスクラムを組み、敵とボールを奪い合う強じんな男たち。潰れた耳に焦点を絞り全身を想像させる。

訥弁の間に間に溜めて息白し

橿原市 佐藤 雅之

△評▽つかえながら話す言葉よりも、白い息の方が豊か。身の回りにもこんな人いると思わせる。

天狼星輝き増して山眠る

出雲市 石原 清司

初霜や遺跡掘る人みな無口

志木市 谷村 康志

収集車落葉の袋二つ呑み

岡山市 三好 泥子

約束を守るごとくに返り花

兵庫 小林 恕水

冬うらら寄り目の多き舞臺面

奈良市 奥 良彦

下校児のけふは道草冬日和

倉敷市 行本 章允

暖かき色編み込みし冬帽子

東大阪市 志賀 克毅

文化祭互ひの趣味を称へ合ひ

和歌山 馬谷富貴子

井上 康明 選

数へ日を数へ忘れてしまひけり

野田市 塩野谷慎吾

△評▽数え日とは、年内の日数が数えるほどになった意。数え忘れてしまったのは、年の瀬の忙しさのせい、寄る年波のためか。

枯蔓を引く一山のあらがへり

東京 望月 清彦

△評▽枯れたツルをするする引くと絡まってしまった。山が引かせまいと逆らっているのである。

大枯野突つ切る空港行きのバス

白杵市 村上 玲子

マンションの押し寄せてゐる枯木山

北本市 萩原 行博

冷たき手自販機の缶取り出しぬ

東大阪市 福井 範子

湯豆腐や芋焼酎は生で二気

霧島市 秋野 三步

アップルパイ好きだった祖母冬日差し

相模原市 富里 泰男

人づてに知る消息や冬の蝶

東京 徳原 伸吉

見る人もなく流れゆく冬の川

延岡市 河野 正

喜捨のごと干面は美をこぼしつ

東京 石川 黎

片山由美子 選

短日や声掛くるにはやや遠し

北本市 萩原 行博

△評▽知人を呼びとめようかどうか迷うことがある。冬の日暮れの慌ただしさと、大きな声を出すことのためらいを巧みに詠んだ。

冴ゆる夜の白黒映画鮮やかに

川崎市 二宮 珊瑚

△評▽「冴ゆる」は皮膚感覚の季語だが、視覚的、心理的な印象にも結びつく。この句は視覚へ転換。

暮早し特急列車通過待ち

大阪市 余田 酒梨

十二月八日必ず海を見る

奈良市 上田 秋霜

思ひ出を温めてゐる日向ぼこ

神奈川 中島やさか

山榎の日をたつぷりと大根畑

那須塩原市 谷口 弘

わが家の灯はるか先なる枯野道

奈良 高尾山 昭

裏山の音の消えゆく冬の雨

姫路市 板谷 繁

新刊の並ぶ店頭冬に入る

宮崎市 渋谷 由鷹

生涯に追ひ風少し冬の芽

浜松市 野畑 明子

小川 軽舟 選

十二月八日すばやくうどん食ふ

下妻市 神郡 貢

△評▽外出先のあわただしい昼飯。今日が太平洋戦争開戦の日だと一瞬頭をよぎるが、すぐに忘れて年末の忙しさに戻った。

短日に帰宅を急ぐクラクション

所沢市 富安 幸志

△評▽帰宅の車で道路は渋滞気味。日の短さとクラクションの音がいらだちをつのらせる。

落葉踏み蹴埋まる森閑か

新居浜市 寺村 洋子

熨斗擦る匂ひほのかに今朝の冬

東久留米市 矢作 輝

茶店より雨の雪吊見てゐたり

町田市 枝澤 聖文

放棄田に群れゐる鴉冬めける

川越市 大野有之介

月光や反転世界兎飛ぶ

茅ヶ崎市 戸川 香織

芋煮会磯朝日にきらきらす

東京 山口 治子

渡り鳥よ見下ろす日本変わったか

姫路市 宗平 真実

路上ライブ歌うも聴くも息白く

草加市 米澤 正治

調べの鼓動

忘れえぬもの 星野高士

12月といえば忘年会。俳句の季節では「年忘れ」とも言う。私は月例の句会に10以上参加している。句会ごとに年忘れが開催されるので、このシーズンは連日年忘れになる。こんなに忘れていたら、去年や一昨年の記憶まで無くなってしまいうそである。

冗談はさておき、実際には「忘れよう」と思うほど、忘れられなくなるのが人間である。俳句には「去年今年」という季題がある。去年から今年に移り変わった感慨を詠う季題だ。「初昔」という季題もあり、こちらは新年になってから、ふと昨年を懐かしむ季題である。「初暦」も昨年を意識させる。いずれも季節は「新年」に分類される。

新年の季題はほとんどが、今年を詠むためのものだ。新年を詠うのに、昨年来年を振り返る季題というのは、考えてみると少し珍しいと思う。過去を振り返るというのも、人間心理の一つなのだろう。

・去年今年貴く棒の如きもの

これは高浜虚子の代表句。年が改まったといっても、時間は変わらず流れているという、大きな句である。俳句は季節の流れを大切にするので、どうしても移り変わってゆくものに目が行きがちだ。季節が移り変わる一方で、変わらないものもあるという、大事なことを思い出させてくれる句だと思う。

読者の皆さまにおかれても、良い年を迎えられることをお祈りする。新年になっても当コラムのことを忘れず、去年今年に渡って、ご愛読いただければ幸いです。

(ほしの・たかし) 俳人